

子どもは乳児期から、さまざまな場面や事柄に好奇心をいだきます。興味や関心があるからこそ自分で遊びを見つけられますし、自分で選んだ遊びは何よりも楽しいと感じます。

子どもたちの周りは初めてのことや知らないことだらけ。いろいろ探索したくてたまりません。探索とは未知のことを自分から探し求める行動で、遊びの大半が探索遊びともいえます。

絵本「とこちゃんはどこ」。人混みの中から元気いっぱいのとこちゃんを探します。絵探しの元祖ともいえる絵本です。最後は、おとうさんとおかあさんがとこちゃんの手をしっかりと握って離しません。子どもは、信頼している誰かにそばで見守られているからこそ探索することができま

す。たくさんの人や物があふれている加古氏の絵からは、温かい家族愛と平和も感じられます。「きんぎょが にげた」。きんぎょが にげた。どこに にげた—。カラフルな色使いや奇想天外な場面設定が魅力で、0歳の頃から何年も繰り返し読み続けている子も多い絵本です。

これらは発刊から40年以上、子どもたち自らが選んだロングセラー絵本です。読んでもらった子どもが親世代になって我が子へとまたつないでいます。

絵本にはお薦めの対象年齢が書かれているものもありますが、あくまでも参考程度にしましょう。発達や年齢、そしてその時の心情によっても絵本から受け取るものは変化します。その時は心に響かなくても、二度三度読むうちに心が揺さぶられたり関心を示したりもします。しばらくぶりに見た時、何かの発見があったりもします。子どもが何度も同じ絵本を読みたがる時はそれに応えてあげましょう。子どもが自ら選ぶものは大事にしていきたいものです。

子どもたちはさまざまな遊びを通して育っていきます。遊びも絵本と同様、知育効果を求めることなく、「ワクワクドキドキ」を大切にしながら子どもの育ちを見守っていきましょう。

| | | | |
|-------------|---------|--------|-------|
| 「とこちゃんはどこ」 | 松岡享子 さく | 加古里子 え | 福音館書店 |
| 「きんぎょが にげた」 | 五味太郎 作 | 福音館書店 | |